

生涯学習

## 研究部だより

No. 4

中学部の授業づくり  
「作業学習」の実践  
～日々の学びの  
積み重ね～



各学部の授業を**全校で見合う機会**として、第3回目は中学部で授業研究会を行った。昨年度までの『生涯学習力を高める教育課程の編成』において、生徒の実態やねらい、取り扱う作業種などを見直し、今年度から新しくファーム班を新設した。生涯学習という角度から見た作業学習とはどのようなものか、また作業学習で高まる力とは何かについて全校で協議を行った。

### 授業研究会（作業学習ミーティング）9月

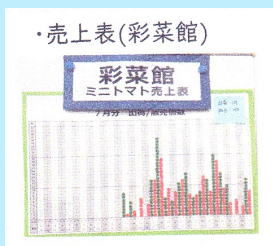
#### 提示授業

- ①作業内容 ②作業において求められる力 ③ねらい（生涯学習力を高める授業づくりのポイントより）  
 ④学びの積み重ねの工夫 ⑤生徒が見通しをもって作業に取り組める工夫

#### ファーム班

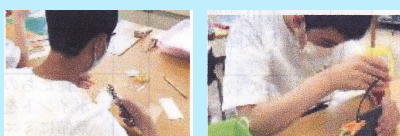


- ① 野菜の栽培、花壇の整備
- ② 状況判断力、粗大な作業をする力、忍耐力、道徳心
- ③ **か**：班員、生物、校外外  
**き**：作物の成長や変化、作業の量と人手の必要性  
**や**：用具の使い方、作物の状態に応じた行動
- ④ 作業の様子撮影→振り返り  
**野菜の売り上げの視覚化**

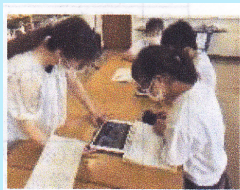


⑤

#### クラフト班



- ① コースター（クラフトテープ）  
エコバッグ（新聞紙）等製作
- ② 手指の巧緻性、判断力、自己理解
- ③ **か**：班員、地域、高等部  
**き**：製品の出来、こつ、道具の使い方  
**や**：よりよい製品作り、指示出し、未経験への挑戦
- ④ 作業日誌の記入  
**製品や作業態度の撮影→振り返り**

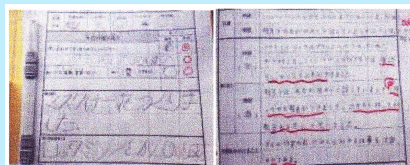


⑤

#### ソーイング班



- ① トートバッグ・マスクケース（縫製）等製作
- ② 技術、レジリエンス、向上心  
作業を見通す力、自己有用感
- ③ **か**：班員、地域  
**き**：自分の役割、友達の頑張り、よい製品、単独作業と共同作業
- ④ めあてに向かう姿、製品の撮影→振り返り  
**個に応じた作業日誌の様式**



⑤

・年間販売（栽培）計画の提示 ・工程（手順）表の提示 ・1日のスケジュール（作業内容・時間）や役割の提示  
 ・環境の整理（置き場所、板書と作業日誌の整合性）

・作業内容のワンポイントの掲示



・製作個数、売上数等の提示

品名	単価	個数	金額
クラフトテープ	24	24	24
エコバッグ	12	12	12
ミニトマト	7	42	294
トートバッグ	25	2	50
マスクケース	10	10	100

・製品、工程ごとの籠を準備



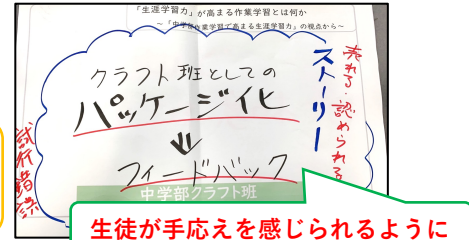
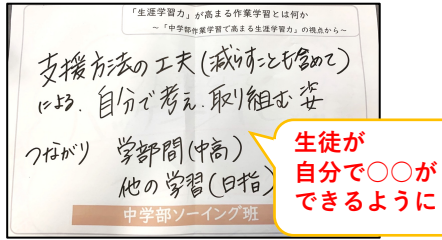
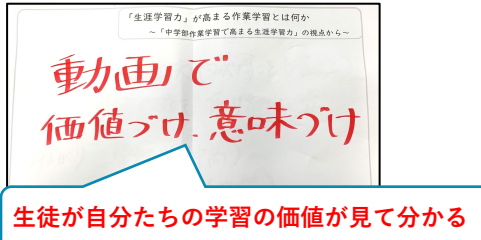
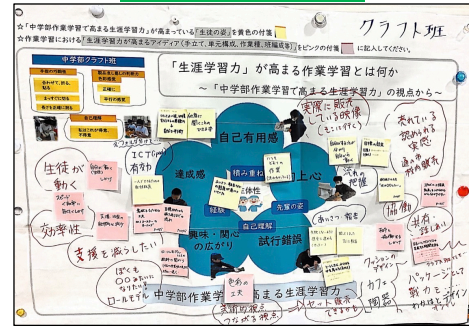
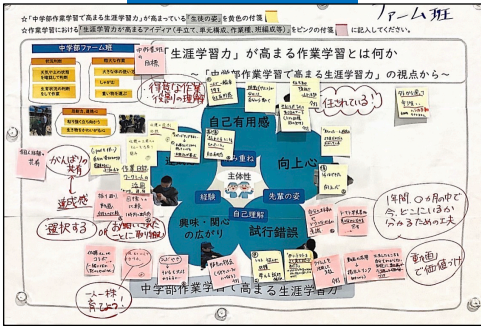
# 授業研究会（協議）

生涯学習力が高まるための授業づくりのポイント（かかわる、きづく、やってみる）の視点で授業を参観し、夏のセミナーでも提示した作業学習で高まる生涯学習力（夏のセミナー：授業づくりWGの意見交換資料参照）に沿って、生徒の姿や学習の手立てについて協議を行った。また、協議のまとめとして、協議の核となったキーワードを挙げた。

## ファーム班

## ソーイング班

## クラフト班



付箋紙が貼られている場所や傾向により、今後各班で授業改善をしていく部分が見えてきました。まとめの「生涯学習力が高まる作業学習とは？」で書かれたキーワードとして、「動画の活用の仕方」「思考し行動する仕掛け」「自己有用感に結び付く振り返り」などが挙げられました。

## 講評 秋田大学教育文化学部 前原和明先生

### ～授業研究会（協議）の意義について～

- ・ 授業研究会は、実践知（暗黙知）を概念化（普段考えて実践していることを言語化）する作業である。また、実践（教育）と研究（理論）を往還しながら進めていくことが大切である上からも、有意義な機会である。
- ・ 仮説検証型（トップダウン）や仮説生成型（ボトムアップ）という視点で見ると、「作業学習で高められる生涯学習力」という仮説の基に授業という実践を協議すると、仮説からはみ出す部分があり、それをまた理論化していくという仮説検証（研究的）と仮説生成型（実践的）の往還をしていたことになる。

### ～夏のセミナー菅野先生のお話から～

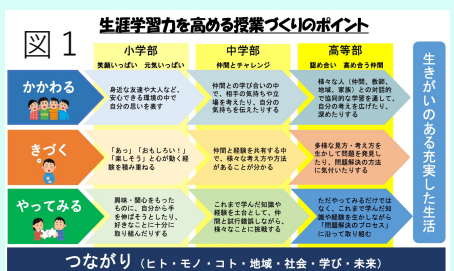
- ・ 今回は、「どのように学ぶか（協働学習→問題解決力）」にスポットが当たっていた。そこから、今後は「何を学ぶのか（職業態度）」、そして、「何ができるようになるか（主体性＝自己選択・自己決定）」を考えていく必要がある。
- ・ 本日の「どのように学ぶか」は、「体験を通して」「課題に対して考えて」「助言を受けながら」学ぶ機会が提供されていた。学ぶための作業があり、作業班ごとに学びの場が提供されていた。地域との接点は学びの機会を広げるものであり、もし、学びの機会が十分に提供されていなくても、先生方の言葉掛けや関わりにおいて学びの機会が提供される。

### ～「態度」について～

- ・ 「している・していない」でなされる部分があり、行動として評価できる部分がある。職業準備性と近いものがあるので、態度の評価としても参考にできる部分がある。

### ～自己決定について～

- ・ 自己決定の段階⇒目標を決める⇒目標に近づくために行動する⇒目標達成を信じる
  - ・ 自己決定スキル⇒自分で選ぶ、自分で決定する、問題を解決する、目標を設定する／達成する、計画を立てる、自分自身を管理する、自分自身の責任をもつ、自分自身についての認識、知識を深める
- 日々の授業の中で「職業準備性」「自己決定スキル」を意識していくことで生徒の変容が見えてくる。



前項各班の⑤は「やることが分かる」ための支援、④は「自分の学びが分かる」ための支援になると考えます。日々の学びの中で、自分が何を学んだのか分かることは、次の学びへの意欲付けからも価値あることです。これからも、自分の学びを実感する場や機会を保障する授業づくりを行っていきましょう。

詳細は、令和元年度研究参照